

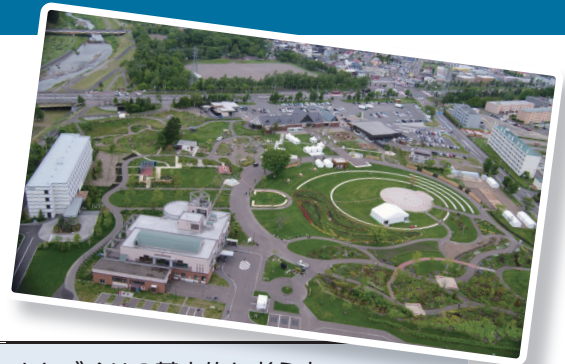
改定しました 恵庭市都市計画 マスタープラン

将来のまちづくりの設計図である「恵庭市都市計画マスタープラン」。
近年の大きな社会変化に対応するため、令和6年度に見直しを行いました。
今回は、これまでの計画を見直すに至った経緯と、今後のまちづくりについて解説します。

◆問合せ先◆
まちづくり推進課 ☎ 33-3131（内線 2331）

都市計画マスタープランって何？

都市の将来あるべき姿や土地利用などを示し、都市づくりの方向性を定めることを目的としています。
「将来のまちづくりの設計図」とも言える計画です。



■都市計画マスタープランの変遷

見直し年 (おおむね10年ごと)	マスタープラン	目標年 (おおむね20年ごと)	まちづくりの基本的な考え方
	平成12年版	平成30(2018)年	・ 成長拡大型
平成21～22年	平成23年版	平成32(2020)年	・ JR3 駅を中心としたコンパクトなまちづくり
令和元～2年	令和3年版	令和22(2040)年	・ JR3 駅を中心としたコンパクトなまちづくり ・ 都市ブランドを高めていく東西軸
令和6～7年	令和3年版 (令和7年改定)	令和22(2040)年	・ JR3 駅を中心としたコンパクトなまちづくり ・ 都市ブランドを高めていく東西軸 ・ 広域の交流軸の強化

現在の都市計画マスタープランと改定の背景

現在のマスタープランとなる令和3年版の策定時には、平成23年版で定めた「JR3 駅を中心としたコンパクトなまちづくり」に加え、市の東西方向に広がる自然環境や田園環境を「東西軸」と位置付け、恵庭の都市ブランドを高めるまちづくりを進めてきました。

今回、都市計画マスタープランを見直した背景には、恵庭市を取り巻く、近年の大きな社会変化があ

ります。

「ライフスタイルの変化」や「周辺地域の変化」により、住宅・商業・工業のいずれにおいても新たな土地需要が想定される一方で、未利用地がほとんどない、というのが現状です。

そのため、これらの変化に対応するため、都市計画マスタープランを見直しました。

改定の背景にある3つの変化

ライフスタイルの変化

- 多様な暮らし方
- 多様な働き方

周辺地域の変化

- ラピダス社の千歳市への進出
- 北海道・札幌 GX 金融・資産運用特区の指定
- 北広島市におけるFビレッジの開発効果

都市的土地利用の変化

- 住宅地 住宅系市街地内にある未利用地のうち、1,000㎡以上のまとまった区画は少なくなった
- 商業用地 商業系市街地内の空き地は、ほとんどが1,500㎡以下の区画となった
- 工業用地 市内に8つある既存の工業団地は全て完売した



改定の基本的な考え方

水と緑、花に囲まれた豊かな暮らしがあるまち
ガーデンシティの確立
 (コンパクト + 東西軸 + 広域の交流軸の強化)

まちづくりの基本的な考え方

現在の市街地では、住宅・商業・工業すべてにおいて、まとまった土地を供給することが難しいという課題があります。

今回の改定では、これらの課題に対応するための「まちづくりの基本的な考え方」として、これまでの「コンパクト」、「東西軸」に「**広域の交流軸の強化**」を加えることとしました。

